

会 議 録

会 議 の 名 称		令和7年度第1回上尾市子ども・子育て会議
開 催 日 時		令和7年7月23日（水） 午後1時30分から午後2時50分
開 催 場 所		上尾市役所 議会棟4階 全員協議会室
議長(委員長・会長)		若原幸範
出席者（委員）		浦和三郎、轟 信一、小谷野史香、長野由莉、藤本貴子、高田裕美、 糟谷珠紀、豊田健介、本田直子、鈴木玲子、稲田英明、中谷茂一、 堀越洋子、橋本洋子、和井田節子、岡田真彦、松澤 歩
欠席者（委員）		吉田雄二、黒須文和
事務局(庶務担当)		【こども未来部】 部長 野崎孝幸、次長 小林仁子 【こども支援課】 課長 長島友美、主幹 山田暁子、主査 小島一樹 主任 金子阿佐美、福田知央、主事 宮崎友貴 【子育て支援センター】 所長 大塚 由美子 【こども家庭保健課】 課長 持田ゆりえ、主幹 半田敦子、副主幹 河見眞里子 【保育課】 課長 佐藤 浩、主幹 赤羽根智子、副主幹 池田誠宏 【こども発達センター】 所長 濱田 信子 【青少年課】 課長 松崎まり子、主幹 吉原 雅司 【学校教育部指導課】 副主幹兼指導主事 國分隆幸
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	① 令和6年度上尾市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について ② 令和6年度上尾市子どもの貧困対策計画の進捗状況について	① 承認 ② 承認
議 事 の 経 過		別紙のとおり 傍聴者数 2名

会 議 資 料	資料 1 上尾市子ども・子育て支援事業計画量の見込みと確保方策進捗状況 (令和 6 年度) 資料 2 上尾市子ども・子育て支援事業計画進捗状況 (令和 6 年度) 資料 3 上尾市子どもの貧困対策計画進捗状況 (令和 6 年度) 資料 4 上尾市子ども・子育て支援事業計画及び子どもの貧困対策計画 進捗状況に関する質問 (令和 6 年度進捗状況)
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 2025年 8 月 30 日 議長(委員長・会長)の署名 <u>菅原 範</u> 議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)	

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長 糟谷委員 事務局（保育課）	令和7年度第1回上尾市子ども・子育て会議次第 （1）開会 （2）新任委員の紹介 （3）会長の選出 （4）議題 ① 令和6年度上尾市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について -----事務局より説明----- （資料1・資料2・資料4） ただいまの説明についてご意見やご質問がございましたら、お願いします。 私は小規模保育園の連絡協議会の代表なので、そこに関わるところでいくつか質問しながら、現場の声もお届けしたいと思います。 資料1の3ページになります。令和6年度、1,2歳児はわりと量の見込みに対して実績は増えていると数値的には出ていますが、特に0歳児が見込みに対して実績が減っているんですけれども、見込みがこれだけあってもその実績が少ないという現状をどういうふうに捉えていらっしゃるのか。 また、新しくこども計画ができましたが、今後5年間もこれぐらいの量の見込みでいくけれども、さっきの母子手帳の交付の実績とかも聞いていてわかる通り、こどもの出生数も減ってきていて、育休制度もすごく充実しているので、0歳児の入所が本当に年々手に取るように少なくなっているのがわかるんですね。それに対して、まだなお市は小規模施設を増やすというような話もあるし、この辺のミスマッチをどういうふうに捉えてるのかをまずお聞きしたいです。 ご指摘の通り、0歳児の保育事業というのは量の見込みよりも下回っているということで、お話の中にもございましたが育休制度に対する社会的な理解が深まってきていて、5年前に量の見込みを出しておりますけれども、そこから比較したときにそちらを上回る利用がされていることが大きな要因であると考えております。今後また改めて、計画の中での見込みを算出いたしますが、そちらにつきましては直近の動向を踏まえた上で、改めて量の見込みを算定していきたいというふうに考えている

	ところでございます。 また、0歳児の保育施設の整備についてでございますが、やはり上尾市内でも地域によって、待機児童や保留児童になる可能性があるというのは差がございます。ですので、各地域の保育需要に応じた形で、今後の保育施設の整備は考えていきたいと思っております。そして、0歳児の需要が下がっていることについては、先ほどお話いただきましたが、依然として1歳児・2歳児の需要は高い状況でございますので、その施設の中で、0歳児クラスと他の1歳児・2歳児クラスの調整をしていくという方策もあるのではないかと考えております。
糟谷委員	待機児童の数が、速報値がホームページにも載っていたので見ましたがけれども、今年は待機児童がゼロになったということと併せて、保留児童は昨年と比べて少しは減っているという状況が報告されていきました。この保留児童の中の内訳で、0歳児がこの中に含まれているのかどうかというところをお伺いしたいです。 あと、需要が地域によって差があるということもおっしゃってましたけれども、今後その0歳児の需要が減っていくことが実績として表れている中で、どうやってその調整をされていくのか。この保留児童の内訳にもよると思うんですけども、例えば1歳児が数が多い場合、その受け皿をどのように増やししながら待機児童ゼロを目指す取り組みを考えているのかというのをお聞きしたいです。
会長	ご質問が2つありました。事務局よろしいですか。
事務局（保育課）	待機児童の解消策として、先ほども申し上げたように、0歳児の受け入れの空きがあるということであれば、そちらを1歳・2歳に振替えをしていくことが可能だと思いますので、まずそういったことをやっていきたいと思っております。保留児童の0歳児の内訳については、分かり次第お知らせさせていただきます。
糟谷委員	0歳児の分を1歳児等に振替えるという調整の仕方っていうのは、私達の小規模保育園とか民間の保育施設などにも働きかけをされていくのか、それとも公立に限るのか、そこはどうですか。
事務局（保育課）	民間も含めて調整をしていきたいというふうに考えております。
糟谷委員	皆さんご存知か分かりませんが、保育園って0歳児が一番公定価格、いわゆる補助金が多いんですね。なので、0歳児が入ってこない、保育園の運営そのものがものすごく大変になると、保育士をそれでも確保はしてなきゃいけないっていうジレンマがすごくあって、その場合これだけ0歳児が少なくて、常に定員割れを起こしてしまっていると、本当に廃園も考えなきゃいけないなっていう事態に今、岐路に立たされているのが小規模保育園です。なので、閉じるのは簡単だけれども、そうすると1歳・2歳の定員もなくなってしまって、結果溢れている1歳児分も減っていくっていうふうになってしまうとなるとやっぱりそこに何か市としてもテコ入れをしていく必要があると私は思っています。

	例えばですが、越谷市とか戸田市は、乳児の定員に対して充足していない場合は、市独自で毎月数万円補助金を出したりということで、何とか待機児童はなくさなきゃならないから運営はしてもらいたい、でも0歳児はなかなか待っていても入ってこないということで、手助けをしてくれているという自治体も県内にはあります。なので、小規模保育園の連絡協議会としても、改めて市に対して要望はしていかななくてはならないなと思っているんですが、こういう公の会議でもしっかり私達の現状を知っていただいた上で、上尾市は「0歳から輝くまち」っていうことを標榜しているまちなので、ぜひその辺の配慮だったり子育てしている親の就労を助けるっていうところの観点からも、予算もしっかり伴うような形で政策化していただきたいということを切に望みます。
会長	情報提供いただきましたので、しっかり受け止めていただければと思います。 他にいかがでしょうか。 それでは他にご意見ご質問なければ採決に移りたいと思いますが、よろしいですか。 それではただいまの議題を承認するということでよろしいでしょうか。
委員一同	承認 ② 令和6年度上尾市子どもの貧困対策計画の進捗状況について -----事務局より説明----- (資料3・資料4)
会長	ただいまの説明について、委員の皆様からご質問やご意見等ありましたらお願いいたします。
岡田委員	今お話のあったヤングケアラーの実態調査のところと、若者相談における若者本人が相談した割合のところに出てきた、アンケート調査をやって、実際にコーディネーターさんが面接をしていると。小学生と中学生の面談の実績、何名の方がされてるのか、もし分かったら教えていただけますか。
会長	事務局よりお願いします。
事務局(こども家庭保健課)	少しお時間いただいてお調べさせていただきたいと思います。
会長	一旦保留させていただきまして、他にありましたらお願いいたします。

事務局（保育課）	先ほど糟谷委員の方から、保留児童のうちの0歳児の人数ということで、お時間いただいておりますところ、保留児童が全体で228人でございまして、そのうちの37人が0歳児というところでございます。
会長	ありがとうございます。 岡田委員のご質問についてはもう少しかかりますでしょうか。
事務局（こども家庭保健課）	ヤングケアラーに関するアンケート調査をもとに実際に面談を実施した小学生と中学生の内訳についてのご質問ですが、小学生が13人、中学生が6人でございました。
岡田委員	ありがとうございます。そのうち例えば学校の枠を超えて、行政のサービスにつないだりとか、関係機関で調整して、こどもがそういった状態から少しでも軽減されるような方向になったケースはありますか。
会長	実際に支援につながったというようなケースということですね。 事務局からお願いします。
事務局（こども家庭保健課）	学校で面談をしまして、その後必要に応じてヤングケアラーコーディネーターが面接を続けているケースがございます。ヤングケアラーの相談と合わせて、自宅での生活があまりよろしくない状況に関して、こども家庭保健課のケースワーカーが支援にあたっているケースもございます。こちらで行っている子育て世帯訪問支援事業もヤングケアラーの児童を対象にしておりますが、調整に入ったケースはございますが実際に実施に至ったケースは今のところございません。
会長	ありがとうございます。 それでは他にいかがでしょうか。
鈴木委員	子どもの貧困対策計画進捗状況の5ページのNo15、「児童扶養手当受給者のうち、養育費を受け取っている世帯の率」というのが、すごく大事なところだなと思っておりました。養育費がちゃんともらえるというのはとても大事なことで、どのような取り組みがなされているのか具体的に教えていただければと思います。
事務局（こども支援課）	養育費の受取りに関する支援につきましては、令和6年度から始めた事業になりまして、ひとり親の方に対して公正証書ですとか、養育費保証契約というのを利用されたときに、5万円を限度に補助をしている事業でございます。利用を促進するために、8月の現況届でひとり親の方が来庁した時にご案内を行いまして、利用促進と周知に努めているところでございます。昨年度の申請件数は、公正証書に係る申請になりますが7件ございまして、7件全て養育費をもらえているという状況でございます。
鈴木委員	すごく良かったなと思います。女性たちだけで大変にならないで、きちんと養育費をもらえるといいなと思います。

本田委員	今の件ですが、養育費をいただくのに、生計を別にしていることもであること等、条件がたくさんあると思うんですけども、保育園に通っている保護者の中には、なかなか籍を抜いてくれないとか、一人でお母さんが頑張ってるっていうケースはかなり多いです。だからそこがもう少し明らかになって、しっかりと対応ができるといいなと思っています。現実には一人で支えているっていうお母さんがすごく多いんですね。勝手に旦那さんが会社辞めちゃって、保険証も使えないとか、そういうこともあるんですね。だから、やはりそういう保護者も、アドバイスをしながらこちらも対応しているんですけど、なかなかデリケートなところもありますし、難しいなと思っているところです。そういうところもひとり親家庭とか別居している家庭がとて増えているので、保育料や養育費とかの、もらう・払うっていうところが、難しいなと思っています。今後の大きな問題になっていくのかなと思います。
会長	ありがとうございます。貴重な現場のご意見、情報提供だったと思います。しっかり受け止めていただければと思います。 他にいかがでしょうか。 よろしいですか。他に無いようでしたら、ただいまの議題についてご承認いただけるということでしょうか。
委員一同	承認
事務局（子ども支援課）	（５）報告事項 ① その他 -----事務局より説明----- ・令和７年度版あげお子育てガイドブックの発行について ・令和７年度第２回上尾市子ども・子育て会議は１月下旬から２月上旬に実施予定 ・こども誰でも通園制度について （６）閉会 以上